

[COMMUNION]

WEB:http://www.nskk.org/

tokyo/index.html

E-mail:comm.tko@nsk.k.org

PHONE:03-3433-0987

FAX:03-3433-8678

Diocese Office



《主教メッセージ》

和解の使者として

主教 アンデレ 大畑 喜道

聖公会手帳の後ろを見ると海外の日系人教会のリストが載っています。かつて多くの先輩たちが、海外に移住した日本人やその家族の牧会のために活躍をし、発展しました。しかし日本と韓国、米国との間には今も言い知れぬ深い溝が存在しています。日本の国策によって多くの東アジアの人々が犠牲になりました。時代の痛みや隣人の苦難を忘れてはいけません。一方、米国やカナダの多くの日系人教会も多く困難な状況の中に置かれました。米国では20万人もの日系人が捕虜収容所に入られたりもしました。カナダでも同じような出来事が起こっています。日系人教会は閉鎖、売却させられました。この件について昨年、カナダ聖公会は正式な謝罪を行っています。様々な動きがある中で、戦後70年の今年、私はロサンゼルス教区の招待を受け

てロサンゼルス聖マリア教会での和解の礼拝に出席する機会が与えられました。かつては日本人司祭が司牧していましたが、現在は構成メンバーもヒスパニック系の人、韓国系の人が多く、日系人は少なくなりました。ステンドグラスに聖公会と漢字で刻まれているのが唯一の面影です。今回の礼拝には大韓聖公会の金主教、米国聖公会総裁主教ジェファーツ・シヨリ主教、植松首座主教も参加され、今後は福音宣教のために、互いに謝罪し、世界の平和のために教会が心を一つに合わせることを、誓い合いました。

また今年は8月にヒロシマ平和礼拝に日本カトリック教会と日本聖公会の全主教が集まり、多くの兄弟姉妹と共に広島街で平和行進を行い、ともに夕の祈りを捧げました。キリストに結ばれた者がどのような生き方をしているのか、神様は私たちに神と人、人と自然、そして人と人との和解を求めておられます。そして私たちを、和解を担う者として、互いに過ちには率直に謝る勇気を、そして和解のための働きへと送りだそうとしておられます。つい最近の話でいえば、10月3日にソウルの大聖堂で大韓聖公会宣教125周年の礼拝が行われました。日本聖公会以外からも世界各国の信徒、修道者、司祭、主教たちが集まりました。2千人以上の大礼拝でした。賛美の声は礼拝堂の外にも広がりました。直後の4日の礼拝では韓国に残った主教たちはそれぞれ、大韓聖公



会の各教会に行つて説教をいたしました。私も江華島の教会で説教させていただきました。本当に受け入れてくれるのだろうか、説教の最後はアーメンの唱和が起りました。聖霊が働いたことを実感しました。しかしすべてが解決したわけではなく、今も日本においても和解や平和に関しても様々な課題が山積しています。涙を流して手を握ってください。老婦人がいました。私はそのぬくもりを感じながら再確認しました。自己保身のために社会の動きに黙認すべきではなく、平和の実現のために日本がこれからのような方向に進んでいくべきなのか。小さいことにも忠実に神の宣教の器として頑張ろう。教区の皆さんも、神は私たちに勇気と希望を与えてくださっていることを信じながら、私たちは何をしたいかなければならないのか、しっかりと見つめながら和解の使者としての務めを果たしてまいりましょう。

9月23日(水・秋分の日)、東京教区にある8教会を会場に教区聖餐式が行われた。当日は晴天に恵まれ、各会場ともに多くの信徒が集まった(参加者の総数約620名)。説教は大畑主教が前もって吹き込んだ音源を各教会で聞くという形をとり、主教はその中で「私たちが持つている危機意識をどう克服していくのか、今日は教会の基本を再確認し、豊かな牧会、力強い宣教に向けて何ができるか考えていただきたい」と語り、

「エリアで祝おう！ユーカリスト」 教区聖餐式レポート

聖書の「蒔かれた種のたとえ」から「：み言葉が蒔かれた私たちは、同時にこの世に蒔かれる種となる。イエスは私の私たちがよい実を实らせるように、水や肥料を与え、雑草を抜くなど、鋤も立たないような心を耕して下さる。誰かがするのではなく、困難な土地を耕してください。私たちが蒔かれた土地の困難な課題に立ち向かっていくことが必要」と語られた。礼拝後は各教会でお弁当を食べたあと、様々なプログラムが持たれ15時に終了した。

清瀬聖母教会

教区聖餐式の会場の一カ所であった清瀬聖母教会では卓志雄司祭の司式で聖餐式が行われました。聖職4名を含めて



74名の出席。予想より多くの人が集まって主のみ言葉と陪餐に与かりわたしたちの上に注がれている主の恵みを分かち合いました。聖餐式の後、清瀬産の栗と筍を用いた「栗ご飯」と「筍ご飯」を食べながら、どのような思いでこの場所に来られたのか出席者からお話を聞きました。主によつて与えられた交わりを深めた貴重な時間でした。清瀬聖母教会に近い所に住んでいるわたしたちは、それぞれ違う教会に所属していても同じ東京教区の信徒であることを、そして主によつて集められた祈りの仲間であることを改めて感じた恵みのひと時でありました。(卓)

阿佐ヶ谷聖ペテロ教会

近隣地域にお住まいの他教会の方が多数おいでくださり、主日礼拝より4割増しの出席者103名での礼拝でした。持ち寄りのお弁当を広げての愛餐会では、



各テーブルの片側に約半数を占める聖ペテロの信徒が座り、他の教会の方には向かい合つて座っていただき、また、6名の司祭方にも交わっていたいただくことで、お互いに会話はずみましました。その後、教会毎の紹介とお話の時を持ち、教会のこと、ご自身のこと、自宅が近いから来たという方や、古き時代の聖ペテロとの関係話を話した方も。バザーの宣伝も兼ねて、バザー福引券が当たるくじ引きも行い、最後には、全員でギターのリードに声を合わせて「おどり出る姿で」他を歌い、楽しんで会を閉じました。(八木)

池袋聖公会

三々五々集まった人々は4人の子どもを含めて85名、年齢の幅は85才前後と思われる(写真を参照)。礼拝の後、礼拝堂は愛餐会の会場に早変わりし、大勢で食卓を囲み歓談しました。「となりの方々と積極的に交わりましょう」とのお勧めの言葉に素直に応じて、初めての試みにもかかわらず、(さすが信徒の皆さん)大いに盛り上がりました。アピールの時間には、松平謙次さんによる教区災害対応チームの説明と原発被災地訪問を継続



されていられる小川昌之さんのお話をうかがうかがいままで報告者の感想ですが、テープで聞いた大畑主教の説教は、生の張りのある声とは一味違った落ち着いた語り口で新鮮でした。(前島)

東京聖三一教会

東京聖三一教会の聖餐式は、司式を高橋頭司祭、他に聖職者・同候補生各2名づつ、会衆75名によって捧げられました。



教会は最寄駅（池ノ上・井の頭線）からも近く、聖三一教会信徒の皆さまは本より多数、聖アンデレ、聖愛、聖十字、立教学院諸聖徒、かつて通った懐かしさに惹かれて…など多方面からの参加が見られました。

親睦の会の各テーブルには教会毎の集いや、偶然の出会いに喜びあい、又、スタツフの方々が飲物・お茶菓子を整えて下さり、昼食を楽しみました。続いて、和を深めよう―皆で歌おう―と銘打って、若手リーダー（太田・大和聖職候補生）推奨の3曲（聖歌・讚美歌）をギター先導で大合唱。圧巻は、中高年の多い会場から『近い将来、礼拝で歌うようになること間違いなし!』と感声も挙がったロック調の讚美歌。テーブル毎の代表者が感想を交わすなどし、高橋司祭の閉会の祈り、李民洙司祭に祝祷を頂き、感謝の中に散会となりました。（吉村）

聖パウロ教会

聖パウロ教会の礼拝は、司式・祝福・下条司祭、分餐奉仕者・高橋（宏）司祭、ケビンシーバー司祭、神崎（和）司祭、佐久間執事、会衆の計108名により捧げられました。

教区からの参加者概数報告は54名。10時を回っても受付は混みあわず、本当にこの数字のままなのかなあと思っていました。多くの方々が足を運んでくださいました。

礼拝後は、参加者の居住地域ごとに昼食・懇親の時をもちました。受付を8つの居住地域（品川、目黒、



大田、世田谷、港、渋谷区、神奈川県、その他の地域）に分け、皆さんには色分けをした名札を付けていた

きました。同じ地域の方の顔と名前を知っていたのが目的です。昼食を持参できなかった方のためにと、めぐみ会（パウロ教会婦人会）の方々が炊き込みご飯を用意してくださいました。ありがとうございました。（阿部）

神田キリスト教会

神田キリスト教会の礼拝は、司式の神崎雄二司祭以下、7名の聖職を含む98名の参加者があり、説教は大畑主教が、各教会に配布した同じ



原稿を読みあげる形で行った。聖餐式のパンは有名なお店に勤めている方のご厚意で、特別に焼き上げてくださった直径40センチほどの大きなパンを使用し、それを裂いて聖餐を行った。

礼拝後の昼食は、各自のお弁当と聖ヨハネ教会の方々が用意してくださった日曜給食用のお弁当を食べ、その後、自分の紹介カード（好きな食べ物、してみたいことなどを書いたもの）を使って、お互いの親交を深めるとい



ゲームを行った。また、希望者には「下町を感じるフィードバック」として神田明神、湯島天神、旧岩崎邸などを巡るプログラムを企画、19名ほどが参加した。（渡辺）

八王子復活教会

八王子復活教会では58名の出席があり、司式菅原司祭、補式須賀司祭、分餐奉仕吉村司祭により一つの食卓を囲みました。礼拝後はホールに移り、それぞれが持ち寄ったお弁当を食べる昼食会となりました。各教会のバザー日程などを紹介しながら和やかなひと時を過ごしました。（須賀）



小笠原聖ヨージ教会

小笠原聖ヨージ教会は島で唯一のキリスト教の教会で様々な教派の方を含み20名の参加者がありました。



当日はシルバークの最終日ということもあり、また本土に帰る船が出るため、島のお土産屋さんで働いている信徒は忙しい中参加して下さいました。（広報）

司祭と語ろう (その16)

司祭 矢萩 新一

今回は、管区事務所の総主事となられて一年の矢萩新一司祭(京都教区)に、広報委員で阿佐ヶ谷聖ペテロ教会信徒の前島恵と八木昭子がお話をうかがいました。



― 先ず、総主事の日常からお聞かせ下さい。

矢萩 日常はほぼサラリーマンです。月曜から金曜日は事務所へ。事務所は土曜休みで、会議がなければ私もお休み。お役のない日曜はこうして礼拝に出席しますが、月の半分位は出張です。主に国内で、海外は年に数回です。

― 普通の信徒にとつては、管区は遠い存在ですが…。

矢萩 日本聖公会は1管区、11教区から成り、各教区に教区事務所があるように、管区事務所があります。

― 日本聖公会の事務所ですね。それでは、管区の役割は、

矢萩 世界の聖公会各管区、

各教区の情報を集めて、必要な情報を管区内、つまり11教区に発信することです。また、聖公会のみならず、他教派、他宗派との窓口にもなっています。

― 11人の主教方をまとめるのは、なかなか骨の折れる仕事ではないですか。

矢萩 直接には首座主教にお伝えし、また主教会へ提案・報告します。

― 主教会は頻繁に開かれるのですか。

矢萩 年3回開かれます。それぞれの教区の課題を分かちあい、主教会としてまた日本聖公会として何を大切にするのかなどを話し合い、共有するわけです。そして、日本聖公会の総意は、2年に一回開かれる最高決議機関である総会ですべて決議されます。

― 一言で共有するといつても地域による違いはあるでしょうし、また東北教区のように東日本大震災を経験した教区もありますね。

矢萩 緊急災害があれば、その教区を支援します。

― 世界中で大きな自然災害

が頻発していますが、その場合の情報は入りますか？

矢萩 ええ、比較的集まりやすいです。こんな事が起こったから祈り支えてほしいなど。

― それが教区を通して各教会に伝えられ、代祷や献金要請になるわけですね。

矢萩 全て拾いきれてはいないと思いますが、比較的大きな災害の場合はそうします。東日本大震災の時も、管区を通して海外から多くの支援が届きました。

― その時、指定献金など、支援する側と現場の要請とが食い違う場合もあったようですが。つまり、被災した教会の人々は自分たちの建物より、地域の人を助けたいという思いが強く、ソフトに使いたいのにはハードにしか使えないといったこともあったとか。

矢萩 そういった縛りはそう多くはなかったと思います。もちろん、篤志家からの指定献金もありました。例えば、原発で被災した子供たちのためのように。

― 総主事と教会の牧師との違いはありますか？

矢萩 違い(の一つ)は教会に住んでいないこと(笑)。

― 教会の牧師にも会議がありますが、そこで話されることに違いはありますか。

矢萩 そこで話される事、つまり大事にすることは同じです。何のために、誰のためにするかは変わります。

― 話題を変えて、お生まれからお聞きします。

矢萩 東大阪の生野センターの近くで生まれ幼少期を過ごしましたが、小学生以降はずっと奈良でした。

― お父様は牧師さんですか。

矢萩 いえ、救急車や消防車の上についているサイレンを作る会社に勤めていました。

― では教会との接点はどうですか。

矢萩 母親が大阪のプール学院の出身で、小学3年の頃に奈良基督教会の日曜学校に放り込まれたのが始まりです。年上のお兄さん達と遊ぶのが楽しくて、小中高と、母親、姉と3人で通っていました。洗礼、堅信はそこで受けましたが、高校は島根県にあるキリスト教の学校に行きました。

愛真高校という無教会派の全寮制・普通科の学校で、飯炊き、洗濯は自分たちでするとい生活をしました。全校生徒は80名程。毎日がキャンプみたいでした。キリスト教人口が一番少ない所に学校を建てたようです。

― 抵抗はなかったですか。

矢萩 姉妹校の独立学園へ通わせられた方から紹介され、まったく抵抗はなかったですね。親元を離れてのびのびと楽しんでいました。

― 毎日の礼拝では式文はなく、聖書を読んで、自由祈禱をし、聖句にまつわるお話を誰かがする、という具合でした。教会を通すよりも、神さまと自分との関係が一番大切という考えでした。

― 司祭になるにはよかったですね。

矢萩 高校生の頃に進路調査があり、何になりたいかと考えた時、教会のキャンプに小中高とずっと参加してきて、そんなキャンプにいつも参加できたらいいなーと。

― 京都教区は琵琶湖の畔にキャンプ場を持っていて、水

泳、キャンプファイヤー、時には聖書の勉強をして2泊3日位を過ごす。学校の友達とは違う友達に会えるのが楽しかった。キャンプをしていくには牧師になればよいかないと。で、同志社の神学部に入學しました。真面目に勉強すると思いきや、当時は大学自治会があつて、4年間そこに身を置いていたので、後半は授業にはあまり出ず…。

― 自治会というのは学生運動ですか。

矢萩 当時、学生運動は下火で、討論というか「キリスト教の考え方で社会をどう捉えていくか」など、ディスカッションから学びましたね。

― でも神学部は卒業されたのですね。

矢萩 一応卒業しましたね。教職の免許も取っていたのですが、法学の単位を取り残したので、科目履修と教育実習を1年しました。その後東京の聖公会神学院へ行きました。― ウイリアムス神学館ではなかったのですね。なぜ。

矢萩 それは京都の神学校では、実習となると京都の教会

になるでしょう。知った人ばかりではやりづらいなと。また、世界をもっと広げたいとも思いました。

― それはご両親の教育方針ですか。それともご自分で広げていったのですか。

矢萩 親からはいろんなことを見て学べと。また、親自身も教会に行つて、変えられた部分があつたと思います。

― お父様も教会に行つていらしたのですか。

矢萩 ええ、私が高校生の頃に堅信を受けました。自分だけが違うお墓に入りたくないとかで。

― それで、聖公会神学校に入學されたのですか。

矢萩 最初は少し働いて社会経験をしてからと思いましたが、中途半端な気持ちで就職できるわけもなく、また、背中を押してくれる方もあつて、入学を決めました。

― 「背中を押される」のはとても大事というか、大きいようですね。それで、入学後は大学時代のようなことはなかったのですか(笑)。

矢萩 勉強は得意ではなかつ

たですが、普通に？過ごしました。卒業後、京都教区の三重県伊賀市にある上野聖ヨハネ教会に赴任し、そこで執事、司祭になりました。

― 奥さまとの出会いやご家族についてお聞かせください。

矢萩 わたしが大学生の時、彼女は高校生で、奈良の教会で出会いました。

― 奥さまからは「エッ、聖職者になるの？とびっくりした」と伺いました。

矢萩 そうでしょうね。でも反対はしなかった。彼女も教会に入りびたりではなかったので、ピンと来てなかったかもしれません。

― 神学校を卒業して半年位で結婚式の案内状が届いて、「あらあら、決まっていたの？」と思いましたが。

矢萩 付き合いが長かったし、神学校の3年間、遠距離で過ごしても大丈夫だったので本物であろうと。

― 両方が思ったわけですね。お子さんを含めてとても仲の良いご家族だとお見受けしています。

― 今回、奥さまにとって、初めての東京生活に戸惑うことはなかったのでしょうか。

矢萩 あつたとは思いますが、以前にも三重から金沢と移動し、娘たちの幼稚園等を通しての付き合いを経験しています。金沢では8年過ごしました。娘2人は金沢育ちです。



― 今年は戦後70年。各地で平和の祈りが行われました。

矢萩 沖繩(6月23日慰霊の日、北谷諸魂教会)、広島(8月6日、広島復活教会)では、11教区の全主教が一堂に

会して祈り、長崎(8月9日、長崎聖三一教会)は日曜のため、できるだけ集まり祈りを捧げました。また広島では8月5日にカトリックと合同

の平和の祈りも。96年に出した戦争責任に関する宣言をふまえて、今回主教会メッセージを出した意義も大きいと思います。

― 最近、世界総主事会議が開かれましたが。

矢萩 総主事会議は3、4年毎に開かれます。今年はアイランドのダブルリンで1週間開催され、38管区のうち28管区が出席しました。今回のテーマは「和解」で、各管区の報告、情報交換を行いました。イスラム教徒とキリスト教徒の間に緊張関係を持っている国が、かなりあるという印象を受けました。

日本と韓国の総主事が日韓の様々な取り組みを紹介したのですが、かつて支配・被支配の関係にあつた国が協働していることは珍しいケースだと思います。これが世界各国の隣国同士の間で広がったらいいと思います。

― 少子化で悩んでいるのは日本だけではないこと、そして先進国といわれる国は宗教離れが進んでいることも知る貴重な機会でした。

第10回聖歌集を歌う会報告

礼拝音楽委員会

8月7〜8日、箱根で開催しました。第1回は2006年、『聖歌集』発行の直前。それから10年、私たちは『聖歌集』とどう向き合ってきたのかを振り返りつつ、未来を見ようという企画です。

ゲストは横浜教区の三原一男司祭、渡部明央司祭。「聖歌集と牧会」と題してのお話。事前、全員に「あなたが新鮮な感動を覚えた聖歌」を挙げて頂きましたが、三原司祭はそのため580曲に楽しみつつ目を通して下さった由。その中から10曲を歌い、「礼拝を楽しむために」というお話でした。ある英国司祭から「礼拝をエンジョイしたかい？」と声をかけられたエピソードが印象的。

渡部司祭は「主に向かって喜び歌おう！」と題し、ベタニヤホームのチャプレンとして超高齢の方々とのふれ合いや、教区青少年キャンプで感じられたこと等を中心にしたお話でした。途中で歌った聖歌数曲の伴奏はご自身のギターで。特に462

番は、何と力強さを感じるものか、と聖歌の豊かさに改めて目を開かれました。

その他、礼拝で用いる曲を中心に式文用曲譜の練習の時間、アンケート結果(36名の参加者から82曲の聖歌が挙げられた。)を分かち合う時間も持ちました。その後、会の名物?アフターセッションでは、セッションや礼拝で歌いきれない・歌いたい聖歌を次々挙げ、深夜まで歌い続けて35曲!

翌日、最後のセッションではグループ別に聖歌・聖歌集への思いの話し合い。そして「これからの聖歌に込めたいこと」を各自短い言葉にし、閉会の「賛美の礼拝」の中で一人一人捧げました。今後の聖歌への期待に皆様のこんなにも多くの思い、深い祈りが込められていることに感動を覚えた。参加後アンケートに、「自分ができることを精一杯やる、そのための力をこの会で与えられた。」と書いて下さった方がありました。スタッフは皆、毎回その思いです。

(委員長 斉藤響子)

テモテ吉野秀幸司祭追悼文

共感の道を行く

司祭 山口千壽

彼の説教を聞くのが好きだった。とは言っても、それほど多くの機会があったわけではない。お互いに若い時代に、当時、彼の司牧していた聖マルチン教会の礼拝に夏休みを利用して出席した折り、知人のご葬儀に参列した時、経験を重ねてからは同じ教会グループとなって、そこでの合同礼拝での説教など、数えるほどしか聞く機会はなかったけれど、良くも悪しくも(と言っても赦してくれるだろう)、彼の牧会の姿勢が表れていた。ツボにはまると一段と聞く者の心を捕らえた。彼の真骨頂を見る思いだった。

私が立教小学校の4回生で、彼は5回生だった。小学生の頃は知らなかったけれど、大学2年生の時に、私が先に籍を置いていた立教大学の学生YMCAに彼が入ってきて、以来、意気投合とは全く逆の関係、しょっちゅう飲み、しょっちゅう喧嘩して、二人とも酔い潰れた。そんな



学生時代を共に過ごした。まさに腐れ縁そのものだった。私の周りの学生たちは幸せそうに見える者が多かった。心配事といえば、せいぜい恋の悩みか、就職活動で希望する会社に念願叶って受け容れられるかどうかという、大切なことではあるけれど誰もが通過しなければならぬ悩みの類のようには私には思えなかった。しかし、彼の視点はそのような悩みも含めて、一人の人間が生きていく上で抱えることになる課題を、その人が背負わなければならない固有の苦しみ、また生そのものの中に内包する苦しみとして、より深く根源的に見つめることを常としていた。

当時、彼はまだ洗礼を受けてはいなかったけれど、仲間の誰かが洗礼を受けることを、人一倍祝福していた。洗礼を受けることで苦しみが消えるわけでも何でもないけれども、その人なりに新たなステージに立つてのことなのだろう。

彼自身はというと、仲間のキリスト者たちの福音理解には到底、納得がいかなかったようだ。耳にする言葉は、彼自身の抱えていた問題の解決には程遠く感じられたのだろう。それで極限状況に置かれた人々の言葉に耳を傾けることで課題を深めようとしたのだと思う。8月6日に広島に一緒に行ったこともあった。ハンセン病療養所の松ヶ丘保養園にも足繁く通っていた。「♪主よ、今宵もみ翼もて、覆い守りませ、暁まで」元患者さんたちの歌う就寝前の祈りを、彼はどのように聞いていたのだろうか。

その後、彼は岩井祐彦司祭と出会って洗礼を受けた。彼の苦しみに共感して下さる方を、岩井司祭を通して知ったのだろう。そしてその共感の道に自ら身を置くことが、彼の最良の生涯の送り方となった。神の憐れみの器として。

ようこそ小金井聖公会へ



小金井聖公会はJR武蔵小金井駅から徒歩15分の閑静な住宅街にあります。多摩グループ4教会の中で最大の教会ですが、2012年4月から定住牧師不在となりました。突然の事態に教会委員と信徒有志が一丸となつて当番制による週報の作成や施設管理体制をつくり、主日聖餐式は管理牧師と立教チャレン団の方々により今日まで守られてきました。誰かが毎日数時間教会にいて、教会を守り諸事に対応するしくみが出来ました。しかし牧会活動の低下を防ぐことが課題です。来年は牧師館に明かりがつくことを皆が祈っています。

今年3月11日に創立75周年を迎えました。2年前に記念事業実行委員会が発足し「主の食卓を囲む」というテーマを掲げて活動を始めました。昨年10月にはケセン語訳聖書の著者で、大震災を生き抜いてこられた山浦玄嗣氏を迎えて75周年記念講演会を開催しました。150名の参加者があり聖堂・会館は満席になりました。今年3月7日の記念礼拝には、大畑主教はじめ他

教会からも多数の聖職・信徒の方々を迎え、市内の他教派4教会からの参加者も得て、ともに主の食卓を囲むことが出来たのは大きな喜びでした。9月には念願の75周年記念誌が完成し、関係者の皆さんにお配りすることが出来ました。



た。編集に先立って実行委員会では、過去の歴史を学び、今を見つめ、将来を考える記念誌を目指す方針を立て、昨年その一環として信徒有志の研究による「15年戦争とキリスト者」等のミニセミナーが4回開催されました。

小金井聖公会の基礎は1932年に2人の女性が始めた家庭集会によって築かれました。以来み言葉の学びを大切にしてきました。菅原裕治管理牧師によって毎月2回聖書を学ぶ会が開かれ、常に12人ほどが集まります。聖パトリック教会の聖書研究会にも参加する人が数名います。

3年前から小金井市内11教会による「小金井市キリスト教ネットワーク」に積極的に参加しています。2013年の一致祈禱会は小金井聖公会で開かれました。聖公会が自由祈禱に慣れないことに気付くなど、エキシメニカルな交わりのなかで新たな学びと出会いがあります。

今年の伝道講演会は、元聖心女子大学キリスト教文化研究所所長の遠藤徹氏（横浜教区信徒）による「《尊びの愛》としてのアガペー」というテーマで11月14日（土）14時から開催します。ぜひ一度小金井聖公会へお越しください。

（トーマス三宅 章）

《信徒リレーエッセイ》

教会と子ども

八王子復活教会

池田 理恵

八王子復活教会も、約15年前までは日曜学校が盛んでしたが、段々と子どもの数が減り、どうしたら子どもが集まるかと考えた結果、土曜日に行ってみようという事になり、名前も《コスモスの会》と変更し再出発したのが2002年の12月でした。

始めは年4回、その後1ヶ月1回行っていました。幼稚園や学校行事、教会行事なども配慮して現在は年8〜9回の土曜日10時から11時30分まで行っています。

内容は、前半に礼拝をして後半は製作やお菓子作りをして、最後におやつ時間です。毎回聖公会八王子幼稚園の園児や卒園生、信徒の子どもが出席しています。人数は多くはありませんが、子どもたちは楽しんで参加してくれています。これからも、子どもが教会に来る機会を作り、子どもが集まる場所になればと願っています。

**日曜学校スタッフ連絡会
「合同子どもキャンプ」報告**

すっかり秋色の季節ですが、暑かった夏のご報告です。

日曜学校スタッフ連絡会が、教区の小学生に呼びかける合同子どもキャンプも今年で4回目を迎えました。高橋

顕司祭をキャンプ長に、こども達に大人気のログハウスのある清里フォレストアースキャンプ場を借り切つて、20教区から約60人が集まり、記録的猛暑の続いた東京を離れ涼しい高原で、お恵みのうちにキャンプを行うことができました。

キャンプは主日ごとに顔を合わせる気心知れたこども達を相手にするのは違い、スタッフ側に一層の重責がかかりますが、毎年心待ちにしてくれるこども達の思いを感じつつ、楽しいプログラムをみんな準備しました。

主立ったプログラムの内容は、1日目の夜が、各キャンプでゲームをしながら探検し、途中きもだめしもす

る「探検ナイトゲーム」、2日目は「牛の乳搾り」と始めたたんに雨が降りホールでゲームをした「キャンプファイヤー」、3日目が子どもたちのユニークなスタンプとスタッフ全員で行った「3匹のたくさんの子ぶた」という劇などです。

今年、特に考慮したのは、この小学生キャンプを何とか教会や教区の中で、次の世代に繋げたいということでした。幸い信仰と生活委員会を経て中高生世代

キャンプの若きスタッフリーダーが参加してくれたことにより、目に見える糸が繋がったような気がします。

また、キャンプはいつものスタッフに加え各教会から5人の信徒の方に協力を仰ぎ、看護士の方を始め、万全の体制で行われました。神さまのもとに集まり「こ



どもを好き」の心で結ばれた人たちとその喜びを共有できたことは、このキャンプでいただいた大きなご褒美の一つかもしれません。

今、教区の中で、独自のキャンプが行えない日曜学校のこども達に、共に過ごした楽しい思い出を心に残すことによつて、中高生世代のキャンプ、またその上の青年会へと繋がつて行くことを期待します。時間がかかるでしょうかいつも誰かが心して道をつくらなければ

と勝手ながら思っています。また、この場を借りて協賛してくださった信仰と生活委員会、物心共に援助してくださったBSAアンデレ同胞会そして様々な形でお支えくだ

さつた多くの皆様に感謝いたします。

前号の「コミュニオン・夏号」に、誤植がありましたので訂正してお詫びいたします。

「訂正」

前号の「コミュニオン・夏号」

に、誤植がありましたので訂正してお詫びいたします。

・3頁2段目末尾 誤「日流同祖論」 ↓ 正「日流同祖論」

・7頁4段目最終行に続き、加筆「しております。(鶴飼良哉)」

・7頁5段目本文4行目 誤「136年」 ↓ 正「136年」

日曜学校スタッフ連絡会
聖マーガレット教会信徒

今井信子

次回クリスマス号
12月20日発行予定

ちょっと聖書、ときどきユーモア (二十一)

1. 占い

牧師が、ある手相占い師の前を横切ると、急に呼び止められた。

占い師「あーもしもし、私の見たところあなたは牧師には向いていませんね」

牧師「何をおっしゃるんですか。私の手相も見えていないのに・・・」

占い師「手相は見えていませんが、日曜日にあなたの教会で説教を聞きました」

2. 勉強家?

信徒「先生、ずいぶんたくさん本をお持ちですね。月いくらぐらい本代に使うんですか」

牧師「そうだなあ、平均すると月5万くらいかなあ」

信徒「さすが勉強家ですね、すごいなあ、でも他に何か欲しいものはないんですか」

牧師「うん、あるよ」

信徒「それは何ですか」

牧師「その本を読む時間がほしい」

3. 情報の漏洩

牧師A「不思議だよ、どこから聞いたのか、信徒の人が亡くなると葬儀屋さんから電話がかかってくるんだよ」

牧師B「これが本当の“故人情報”の漏洩というやつだね」